

【宗教講座】

日常生活と聖書

聖書学の勉強ではなく、講座名の通り、3人の担当者が、日常生活の中でふと気づいたこと、励まされたこと、安心したことなど主観的に伝える気軽な講座です。参加の皆様の自由な反応や、ご意見もお互いの理解を広げます。正解というのはなく、また発言しない自由も十分あります。

聖書の使用箇所は担当者がそのころの日常生活から考えて決めてお知らせしますが、聖書は用意してありますので、お持ちでなくても大丈夫です。内容に継続性はないので、どの段階での参加も可能です。

日程

2025年

10月15日、11月19日、12月17日

2026年

1月14日、2月18日、3月11日

時間

水曜日・10時30分～11時30分

場所

聖心女子大学4号館
2階 聖心コモンズルーム

受講料

6,000円

講師

シスター 岩井 慶子 (聖心会)

定員
15名



【宗教講座】

キリスト教への招きⅩ

世界の多くの宗教には固有の祈りや祈り方があります。第10期となる2025年度は、キリスト教の祈りについてさまざまな側面から学びます。前半は聖書における祈りを取り上げます。その中心は、イエス自身の祈りとイエスが弟子たちに教えた「主の祈り」です。後半は、教会の歴史の中で唱えられてきた祈りを取り上げ、マリアへの祈りやミサやさまざまな典礼で用いられてきた祈りを紹介します。

この講座では、カトリック教会の立場から、信者ではない方にもできるだけ分かりやすくお話しいたします。これまでの講座を受講していない方も歓迎します。

日程

2025年

10月4日、10月25日、11月15日

2026年

1月17日、2月21日、3月14日

時間

土曜日・14時～15時30分

場所

聖心女子大学4号館
2階 聖心コモンズルーム

受講料

6,000円

講師

宮越 俊光 (カトリック中央協議会)

定員
15名



『大和物語』を読む

『大和物語』は、『伊勢物語』と並び称される歌物語の一つであり、平安時代の貴族社会で語られていた恋愛譚や古伝説などを紹介する作品です。我々は、これを読むことによって、平安貴族の興味が何に注がれていたか、また彼らの築いた文化がどのようなものであったかを、如実に知ることができます。ただし、この作品は有名である割に注釈書が少なく、内容が十分には理解できていないのが現状です。この講座では、その各章段を丁寧に読み解きながら、表現の真意を突き止め、文章の魅力を楽しみたいと思います

講義日程

- ①10/31 『大和物語』を読むために(第九九段「峰のもみぢ葉」)
- ②11/14 第五五段「限りと聞けど」・第五六段「もと来し駒」・第六二段「宿世」
- ③11/28 第七一段「山桜」～第七三段「待つとてさへも」
- ④12/12 第七四段「宿の桜」～第七六段「川千鳥」
- ⑤1/16 第七七段「明石の浦」～第七九段「須磨の浦」
- ⑥1/30 第九二段「師走のつごもり」・第九三段「伊勢の海」
- ⑦2/13 第九四段「巢守」・第九五段「越路の雪」
- ⑧2/27 第一〇五段「うぐひすの声」
- ⑨3/13 第一五七段「馬槽」・第一五八段「鹿鳴く声」
- ⑩3/27 第一五九段「雲鳥の紋」・第一六〇段「秋菰」

時間

金曜日・10時30分～12時00分

場所

聖心女子大学4号館
2階 聖心コモンズルーム

受講料

15,000円

講師

山口 佳紀 (聖心女子大学名誉教授)

定員
15名

お申込み お問い合わせ



【文学講座】

禁忌の恋はどう語られたか —藤壺の物語を読む(「須磨」巻③)—

光源氏とたった五歳しか変わらない継母・藤壺の存在は、光源氏の人生を、あるいは『源氏物語』の正編全体を貫く重要な軸です。

しかしながら、戦前谷崎潤一郎訳『源氏物語』において藤壺の登場箇所が削除されたことが象徴するように、皇統乱脈を描く光源氏と藤壺との恋は時代の流れの中で忌避されることもありました。果たして物語はどのように禁忌の恋を語っているのでしょうか。

本年度も引き続き、光源氏の須磨における蟄居の日々を読んでいきます。

講座の中では従来通り、貴族たちの生活世界をイメージしていただけるように画像資料を用います。受講者の皆様が平安朝の世界を心の中に思い描きながら原文を味わってくださるよう努めます。また、途中回からのご参加や講座内容に関するご質問也大歓迎いたします。オンライン講座ですが、双方向のやりとりとなるよう工夫したいと思います。

講義日程

- ①9/30 昨年度までの振り返り、ご質問への回答
- ②10/7 供人や大宰大貳との交流
- ③10/14 右大臣政権下の京の動静
- ④10/21 光源氏の嘆き深し
- ⑤10/28 明石の入道、娘を光源氏と縁づけることを思案

時間

火曜日・13時00分～14時30分

場所

オンライン形式 (ZOOM)

受講料

7,500円

講師

大津 直子 (同志社女子大学 准教授)

定員
15名

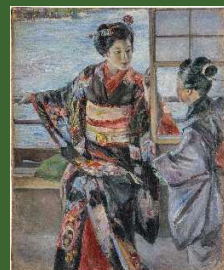
お申込み お問い合わせ



【教養講座】

明治洋画入門 ー西洋絵画受容とその時代背景を探るー

日本で本格的な洋画学習は幕末に始まり、外来の書物や文物を介して学ぶ段階から、来日した西洋人に学ぶ段階を経て、日本の画学生が西洋に留学して現地の画学生と共に学ぶ段階へと展開しました。本講座では、西洋に留学して絵画を学んで帰国した画家たちが明治中期の日本の洋画界にもたらした変化を概観します。



黒田清輝 「舞妓」
(カンヴァス・油彩、1893年、東京国立博物館蔵)

「黒田清輝と白馬会」では、フランスに学んだ黒田の絵画観や彼が中心となった美術団体白馬会の作品とその影響、「白馬会と太平洋画会」では明治中期の洋画界を牽引したふたつの美術団体の絵画観や作風の違いを見ていきます。



満谷国四郎 「二階」
(カンヴァス・油彩、1904年、東京国立博物館蔵)

日程

10月16日(木)・10月30日(木)

時間

13時～14時30分

場所

聖心女子大学4号館
2階 聖心コモンズルーム

受講料

3,000円

講師

山梨 絵美子 (千葉市美術館館長)

定員
15名

お申込み お問い合わせ

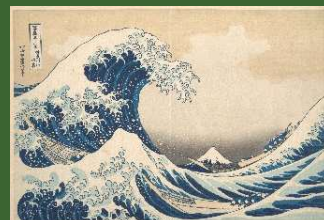


【教養講座】

北斎と広重 ー浮世絵風景画の二巨匠を較べるー

葛飾北斎と歌川広重はともに浮世絵風景画の巨匠として知られています。1830年代初頭、北斎は「富嶽三十六景」をヒットさせて浮世絵の名所絵(風景画)を錦絵(市販される多色摺浮世絵版画)の主要ジャンルに成長させ、その後、広重が「東海道五拾三次」を成功させて、ジャンルとして確固たるものとなりました。

しかしながら、両者の絵づくりの手法には大きな違いがあります。それぞれの画風形成過程をたどるとともに、作画手法の特色を明らかにしつつ、当時の人々にどのように受け入れられたのかを考察します。



葛飾北斎「富嶽三十六景・神奈川沖浪裏」
(メトロポリタン美術館所蔵)



歌川広重「東海道五拾三次・日本橋」
(シカゴ美術館所蔵)

日程

11月11日(火)・11月25日(火)

時間

13時～14時30分

場所

聖心女子大学4号館
2階 聖心コモンズルーム

受講料

3,000円

講師

大久保 純一

(すみだ北斎美術館館長、町田市立国際版画美術館館長)

定員
15名

お申込み お問い合わせ



韓国のやきものを知る

日本や中国とは異なる独自の陶磁文化が
花開いた韓国のやきものを学び、その鑑賞と
理解に役立てて頂くための講座です。

第1回では高麗時代(918～1392)の青磁、
そして第2回では朝鮮時代(1392～1897)
の粉青沙器と白磁をテーマとして、その特徴
と変遷を概観しつつ、同時にそれらに美を
見出した近代期の様々な言説を振り返り、
韓国のやきものの美的特質を考える機会に
します。



《青磁象嵌雲鶴文梅瓶》
(高麗・12世紀後半～13世紀前半
韓国・国立中央博物館)

※図版引用元：国立中央博物館(<https://www.museum.go.kr>)

日程

2026年1月8日(木)・1月22日(木)

時間

13時～14時30分

場所

聖心女子大学4号館
2階 聖心コモンズルーム

受講料

3,000円

講師

田代 裕一郎
(東京文化財研究所文化財情報資料部研究員)

定員
15名

お申込み お問い合わせ

